

そだてよう ふくしの芽

福祉教育プログラム

～小学校編～

令和5年4月現在

海南市社会福祉協議会

少子高齢化の急激な進行、核家族化の増加、近隣や地域のつながりが希薄化する中、現在の子どもたちは地域の方々と関わる機会が少なくなってきました。

障害のある人や高齢者だけではなく、地域の様々な世代や立場の人と関わることで、子どもたちに相手を思いやる優しい心が育まれます。

そこで、海南市社会福祉協議会では、様々な立場の人と関わる中で、子どもたちが「ふくし」について考え、また相手の立場になって「今の自分たちにできることは何か」を考えるきっかけづくりを目的とした福祉教育事業を推進しています。

「学校と地域」が主体性をもって取り組められるよう、学習内容の企画の段階から相談に応じたり、地域の社会資源や人材をつなぐコーディネート、また地域の様々な資源を駆使した学習プログラムの提案を行っていきます。

地域に住む誰もが安心して暮らせるまちづくりの実現に向けて、みんなで一緒に考え取り組んでいきたいと考えています。

No.	プログラム名	内 容	対 象	時限数	講師・外部協力者等	実施例
1	高齢者との交流 (お宅訪問)	高齢者のお宅を訪問し、日常生活の様子や趣味、特技に触れ交流する	3年生以上	3時限	民生委員 地域の高齢者等	
2	高齢者との交流 (施設訪問)	福祉施設等を訪問し、レクリエーションを通じて交流する	3年生以上	3時限	福祉施設等	
3	アイマスク体験	目の不自由な方の立場になり、日常生活動作を体験し、困りごと等を考える	4年生以上	2時限	視覚障害者等	
4	点字体験	点字の仕組みや点訳の仕方を学び体験をする	4年生以上	2時限	点訳ボランティア	
5	手話体験	耳の不自由な方とのコミュニケーション方法である手話を体験する	4年生以上	2時限	手話ボランティア	

No.	プログラム名	内 容	対 象	時限数	講師・外部協力者等	実施例
6	車いす体験	車いすを使用している方の立場になり、日常生活動作を体験し、困りごと等を考える	4年生以上	2時限	民生委員 地域の高齢者等	
7	高齢者疑似体験	高齢者の立場になり、日常生活動作を体験し、困りごと等を考える	5年生以上	2時限	民生委員等	
8	親子車いす体験	車いすを使用している方の立場になり、日常生活動作を親子で体験する	5年生以上	1～2時限	民生委員 地域の高齢者等	
9	まちあるき	グループに分かれて地域の困りごとや聞きたいことをインタビューする	6年生	2時限	地域住民等	
10	地域を知ろう	地域の福祉活動者からそれぞれの取り組みを聴く	6年生	2時限	民生委員 自治会長等	

- ・どのようなことを体験をしたいのか、どのようなことを学びたいのかなど目的にあったプログラムをお選び下さい。
- ・他のプログラムと組み合わせて実施することも可能です。
- ・記載内容（対象・時限数）はあくまでも目安です。お気軽にご相談ください。
- ・海南市社会福祉協議会のホームページにも掲載しております。

【問い合わせ】

海南市社会福祉協議会

TEL：073－483－6777

FAX：073－483－6771

URL：kainanshishakyo.com

